

草の根 通信

VOLUME

111

Kusanone Tsushin

[2022年7月発行]

父島

OGASAWARA



小布施


NAGANO

・ウェビナー：野球 日本伝来150年記念 Baseballと野球、それぞれの戦術
～日本における野球文化とその戦術～ 開催報告

特集

寄稿「日本に来航した最初のアメリカ船」 文：櫻井敬人氏

- ・サミット大会再開へ向けて！今秋、日米草の根交流プログラムを開催します！
- ・万次郎関連団体情報



彼女の名前はクロエ。
アジアの小さな町で暮らしています。
まだ誰にも言っていないけれど、
将来は、獣医さんになりたいそうです。

そんな女の子の毎日に、
私たちの仕事は役立っているだろうか。
三菱商事は、そんなことを考えます。
彼女の未来を考えることは、
この世界の未来を
考えることにつながっている。
そう思うのです。
仕事広がるほど、複雑になるほど、
その先にある一人の幸せを想う。
私たちは、三菱商事です。

世界とひとりのために。



開催時間: 2022年4月23日 午前8時～
共 催: CIE-US・EngageASIA
参加人数: 約140名
スピーカー: 加藤良三(元駐米大使、第12代日本プロ野球コミッショナー)
 トーマス・シーファー(元駐日大使、テキサス・レンジャーズ元球団社長)
 マリオン・ロバートソン氏(元オリックス・バファローズ・エグゼクティブ・アドバイザー)
ホ ス ト: ジェイムズ・ケリー(CIE-US理事長)
進 行: デイビッド・ジェーンズ(CIE-US理事)

150年前にアメリカ人教師によって伝えられた「ベースボール」はやがて「野球」という国民的スポーツとして日本に受け入れられ、独自の成長を遂げてきました。いつの間にかその球技はそれぞれの文化の違いから、時代的背景から、二つの異色のスポーツになってしまったのか。

日米外交の中枢を担い、また両国の球界の真髄を知る加藤大使とシーファー大使、そして日米双方でビジネスマンとして活躍しているロバートソン氏との3名により、ベースボール・野球について語っていただきました。



日本にベースボールが伝来

1872年に第一大学区第一番中学(のちの開成学校、東京大学の前身)に赴任した、アメリカ人教師のホーレス・ウィルソンが、教育の一環として学生たちに「ベースボール」を紹介する。



加藤大使

団体競技であり、協調性を育みながら戦略的な思考を養う総合的なスポーツとして、エリートたちを育成する学校で最適なものとして受け入れられたのでしょう。



ロバートソン氏

ホーレスがアメリカにいる家族に送った手紙には、「日本で英語を教えるのに飽きてきたので、ベースボールを教えてみたんだ。」と書かれていたそうです。

第二次世界大戦後の日米友好関係の構築における野球の役割について

今年アメリカ大統領令9066号の発令から80周年、沖縄返還50周年となることから、アメリカの負の歴史としてふりかえり、そのような中でも野球が日米間の融和に非常に重要な役割を果たしたことを伝えられた。



加藤大使

戦前に培った草の根的な野球交流が、両国の共通の言葉のように、両国の溝を埋めたのだと思います。



シーファー大使

先の戦争は信じられないほど両国に激しい感情があふれたことを忘れてはなりません。また、収容所の中で子供たちがカプスカウトのユニフォームを着て野球をしていた写真を見つけたときは、野球ができた事実だけを喜びました。強制収容をおこなった大統領令も大変悲劇的な事実であり、多くのアメリカ人が遺憾に思っています。

野球とベースボールの違い



ロバートソン氏

野球は武士道に通じる「野球道」です。バッター対ピッチャーの一騎討ち。礼には始まり、礼に終わる。特に高校野球はその典型です。



加藤大使

団体競技として、チームのために一人一人が動き、犠牲も厭わない姿勢は、アメリカでのベースボールではあまりみられません。



シーファー大使

球団経営やマーケティング手段にも根本的な違いがみられます。

日米の外交関係における野球の役割について



加藤大使

私の経験上、要人との会話は、概ね野球関係の話から始まりました。野球のおかげでスムーズに良好な関係が築けたと言っても過言ではありません。野球にはとても感謝しています。



シーファー大使

野球は、草の根レベルでも、公的な場でも、日米両国にとって大変重要な架け橋としての役割を果たしていると思います。実際にプレイするのも、見るのも楽しいものですし、日本とアメリカの野球を語り合うのは、お互いにとって更に良いことだと思います。



ロバートソン氏

野球は、10歳の少年時代に戻らせてくれるように、私たちの純粋な心をつなぐものであり、愛すべきものであり、誰もが好きなものです。私も日本人とのビジネスでは会話の50%以上が野球の話ではないかと思うほどです。野球は良い人間関係を築く最適なツールだと思っています。



録画版はこちら(英語のみ)

<https://vimeo.com/705594314>

参加者の声



野球に焦点を当てた日米双方の文化の違いを知るととても素晴らしい企画でした。

録画がアップされたら、またしっかりとみたいです。



授業で学生たちに紹介したいと思います。

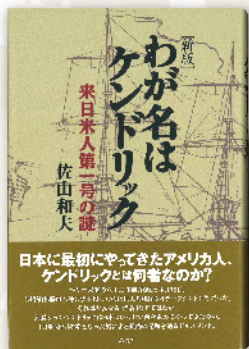
とても楽しみました。

和歌山といえば、何を思い浮かべますか？みかん、梅、世界遺産の高野山や熊野古道、パンダなどなど数多。2024年の開催に向けて再延期となった日米草の根交流サミット和歌山大会を通して、しっかりと日本の皆さまへもさまざまな和歌山の魅力を発信していきたいと思います。実は日本で最初と言われる日米交流が、和歌山県で起こっていたことをご存知でしょうか。時は江戸時代中期から後期に差し掛かる寛政の改革が施行され、浮世絵や滑稽本、歌舞伎などの庶民文化が全盛期だった頃。急速に近代化が進む欧米事情など全く知らない紀伊半島の南端に住む人々と、日本の情報に希薄なアメリカ人との交流の記録が残されていました。この日本最初の日米交流の史実と現代に続く日米友好について、ニューベッドフォード捕鯨博物館のアシスタント・キュレーターを経て、現在は和歌山県太地町で学芸員を務める櫻井敬人氏にご寄稿いただきました。

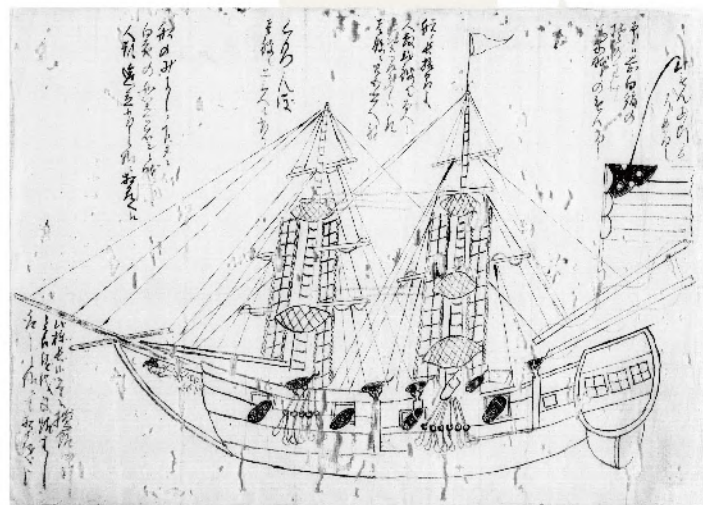
日本に来航した最初のアメリカ船 さくらいはやと 文：櫻井敬人氏

ジョン・ハウランド号の船員が土佐漂流民を鳥島から救出する半世紀前の1791年4月末、2隻の異国船が紀伊大島檣野崎の沖に現れ、大島と陸繋島の潮岬で塞がれた入り江に侵入し、時々位置を変えながら10日間にわたって留まった。この2隻が日本に来航した最初のアメリカ船で、マサチューセッツ州ウェアハム出身のジョン・ケンドリック船長が率いるレイディ・ワシントン号とグレース号であった。1819年に初めてハワイに到達した米国捕鯨船に先駆けて、広東で交易に従事するため、米国東海岸からホーン岬を回って太平洋に出た最初の米国船の一隻がワシントン号であった。

串本町は1974年に日米修好記念館を建設し、そこが日米交流の原点であることを発信してきた。日米野球交流史を特集した『草の根通信』前号で紹介された佐山和夫氏が1991年に『わが名はケンドリック』を著すと、翌年の県議会で同書が取り上げられた。県教育委員会が2009年3月に出版して県内の全生徒に配った歴史副読本『和歌山発見』には、その史実が以下のように書かれている。



『わが名はケンドリック 来日米人第一号の謎』彩流社



「ネイティブ」が描いたレイディ・ワシントン号の写生画（神奈川大学日本常民文化研究所写真提供）

「1791（寛政3）年3月26日、アメリカの商船レイディ＝ワトン号が串本の大島檣野に立ち寄りました。ペリーが日本に来る62年も前です。船長の名はジョン・ケンドリックで、彼は、アメリカの太平洋北西海岸で毛皮貿易を最初に手がけた人として有名です。鎖国中の日本に突然現れた異国の船に対し、村人たちが釣りに船に

乗って見に行きました。また乗組員たちが村人を船内に招いたり、紙を与えたりするなど、アメリカ人との交流の記録が伝えられています。」

ワシントン号来航から225年が経過した2016年、マサチューセッツ州在住の歴史家スコット・リドレー氏がグレース号の航海日誌を発見した。22歳のサミュエル・デラノ・ジュニアが船上で書き留めたものである。最初の日米交流の様子が記された一級資料の発見の知らせは、米国船来航225周年記念式典を準備していた串本町長の田嶋勝正氏をはじめ関係者を喜ばせ、米国政府代表として式典に参加することになっていた総領事のアレン・グリーンバーグ氏を驚かせた。以下に航海日誌の抄訳を記す。なお日誌は修復を経てダクスベリー歴史協会のホームページで公開されている。

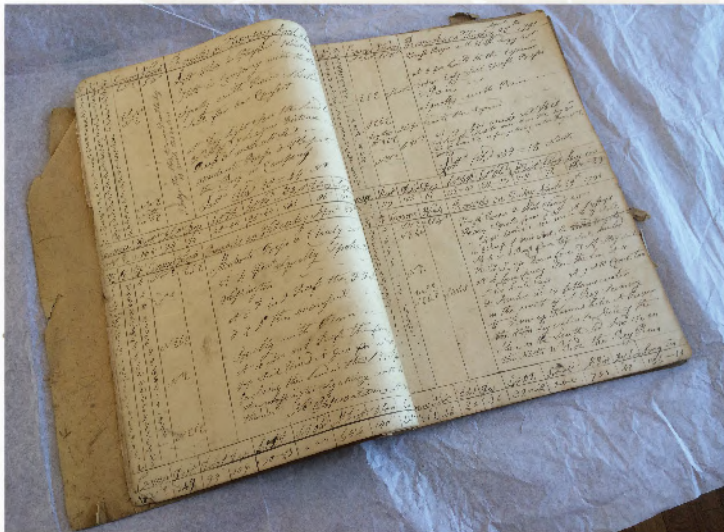
<https://duxburyhistory.org/collection-highlights/logbook-for-brig-grace-1791/>

- 4月28日 ・川のように狭まった湾口に投錨。
- 4月29日 ・たくさんの小船が近づいてきた。出て行けと言っているようだ。…水を汲みにワシントン号からボートが降ろされた。…ネイティブたちが山の上からボートを見ている。長い槍か何かを持っているようだ。
- 4月30日 ・ボートが水汲みに向かった。…松の木を切った。…ネイティブたちが近づいて来たが、何もわからない。
- 5月1日 ・たくさんのネイティブが乗船して、薪と、袋に入った米をくれた。…小さな集落の前にある良い港だ。良い日だった。
- 5月2日 ・たくさんのネイティブのボートが両船を取り囲んでいる。ケンドリック船長がやってきて昼食を摂った。…両船から礼砲を放った。ケンドリック船長の船に因んでレイディ・ワシントン港と呼ぼう。
- 5月3日 ・ネイティブたちがやって来て、身振りで行けと言う。どうも彼らの首長が我々との取引を許さないようで、取引すれば殺されるようだ。



入り江を去った2隻は間もなく離れ、再び出会うことも、日本に戻ることもなかった。紀州徳川家の正史には、和歌山から駆け付けたがすでに異国船はいなかったとだけ記された。それから225年後の2016年11月1日、串本町文化センターで「日米修好225周年記念式典」が開催された。振り返れば、それは単なる周年記念事業ではなかったと私は考える。まず半年前の5

月27日、現職大統領として初めてオバマ氏が広島を訪問した。そして12月27日には、今度は安倍総理がハワイ真珠湾を訪れた。つまり日米交流225周年記念式典は、日米和解を強く世界に印象付ける一連の歴史的イベントの幕間に実施された、いや、その一幕だったのではないか。グリーンバーグ氏の秘書官に最近会って同意を迫ったが、彼女は人のいい微笑みを口元に浮かべて軽く頷くのみであった。



グレース号の航海日記（ダクスベリー歴史協会所蔵）

- 5月4日 | ・港に中国風の船がたくさん停泊している。…ネイティブたちは中国人によく似ている。…交易は不可能らしい。
- 5月5日 | ・ワシントン号は出発したが、悪天候で港に戻ってきた。
- 5月6日 | ・嵐…
- 5月7日 | ・索具の点検…
- 5月8日 | ・ワシントン号とともに海に出る。たくさんのボートが我々の後に続いて港を出て来た。
- 5月9日 | ・ワシントン号を待つ。
- 5月10日 | ・船長がケンドリック船長に会いに行った。…歓声を上げて互いに励まし合い、そして別れた。…3、4リーグ先にワシントン号が見える。

しかし私は、キャロライン・ケネディ大使が日米両首脳の広島ならびにハワイ訪問に同行しただけでなく、串本に2分のビデオ・メッセージを送ったことを知っている。彼女は、日米の先人たちによる交流が両者の勇気と先見の明の表れであるとまず断言した。そして225年後の現在、日米同盟がアジア太平洋地域の平和と繁栄の礎であり、その明るい未来は、和歌山と彼女の故郷マサチューセッツ州を含む日米両国の若者たちの肩にかかっていると述べ、最後にこう呼びかけた。「勇気を持って新しいことに挑戦しよう！恐れずにリスクを取りに行こう！225年前に、私たちの先人がそうしたように。」

式典を機にリニューアルされた日米修好記念館には、「ネイティブ」の見張りが描いた、船尾に「星隼のもの」の旗を掲げたワシントン号のスケッチ（『紀州小山家文書』）も、グレース号航海日誌の詳細も展示されている。ケネディ大使のお墨付きを得たにもかかわらず、日米交流が紀州南端の海辺で始まったことは未だ教科書に載っていない。コロナ禍のせいか、230周年を意識した人は少なかったようだ。ケネディ大使の言葉が、そしてオバマ大統領が真珠湾で述べた以下の言葉が私を励ましてくれるので、私は250周年に向けて作業に戻るとしよう。「私たちは受け継ぐ歴史を選ぶことはできません。しかし歴史から学ぶべき教訓を選ぶのは、そしてその教訓をもとに将来の進路を決めるのは、私たち自身なのです。」

櫻井敬人プロフィール

岡山県生まれ。太地町歴史資料室学芸員、ニューベッドフォード捕鯨博物館顧問学芸員、中浜万次郎国際協会理事など。2018年にジョン万次郎資料館（土佐清水市）が、2016年に串本町立日米修好記念館がリニューアルされた際に常設展示を監修した。

サミット大会再開へ向けて!

今秋、目米草の根交流プログラムを開催します!

今できる交流の方法を模索しながら、コロナ感染対策を講じて、対面型の国際交流の準備を進めています。

目米草の根交流サミットin小布施(長野県)

11月1日(火)~6日(日)

参加対象者 日本に興味を持つアメリカ人および
外国籍の方(日本在住可)
※人数に限りがあります。
※日程およびプログラム内容に変更が生じる場合があります。

栗と北斎と花の町として知られる小布施町で、コロナに対する感染対策を講じながら、1分科会のみでサミットを開催します。葛飾北斎が晩年過ごしたホスピタリティあふれ、旧と新が見事に融合する小布施で、アメリカ人参加者と町民との交流を図り、友情を育みます。



Key Persons

遠山 宏樹さん(とよまひろき)

小布施町地域おこし協力隊、一般社団法人小布施まちイノベーションHUBにて教育事業を担当。教員を目指していた学生時代の小布施との出会いから、新卒でJICA海外協力隊としてガーナへ赴任。2020年より現職。長野県出身。



日高 健さん(ひだかたけし)

小布施町地域おこし協力隊、一般社団法人小布施まちイノベーションHUB理事。東京都出身。外資系コンサルティングファームを経て2020年1月に小布施町に移住し、地域をフィールドとした人材育成プログラム、高付加価値観光ツアー等を企画している。



国際草の根交流サミット式典・コンベンションin東京(仮) **同窓会の方たちもご参加ください** 11月5日(土)

目米草の根交流フォーラムin父島~ペリー提督が残した31星星条旗(仮) 11月4日(金)~12日(土)

『草の根通信 109号』で紹介した、ペリー提督が日本遠征の際に、父島に最初に移住したマサチューセッツ州出身のアメリカ人ナサニエル・セーボレー氏に残した31星の星条旗に関する新聞記事から始まった交流を辿るフォーラムを世界自然遺産に登録された小笠原諸島の父島で開催します。

捕鯨航海時や幕府の調査団として咸臨丸で来島した万次郎にも縁のある父島へ、ペリー提督子孫のマシュー・ペリー氏と万次郎子孫の中濱京氏と共に訪問し、小笠原の皆様とその歴史や文化、自然などを学びながら交流を図ります。

日米市民と一緒に過ごす1週間、CIEの初めての試みです。

http://www.manjiro.or.jp/foundation/kusanone/kusanone_tsushinvol.109.pdf



参加対象者 日本人およびアメリカ人・外国籍の方(日本在住可)

参加人数 30人 **協力** セーボレー孝さん・小笠原村

Schedule

- 11月4日(金) 東京着
- 11月5日(土) 国際草の根交流サミット式典・コンベンション
- 11月6日(日) 東京発 11時(おがさわら丸泊)
- 11月7日(月) 父島到着(ホテル泊) ウェルカム式典
- 11月8日(火) 島内ツアー 演講会交流@都立小笠原高校
- 11月9日(水) 自由行動 オブショナルアクティビティ
- 11月10日(木) 午前 自由行動(おがさわら丸泊) 午後 父島発
- 11月11日(金) 東京着 15時
- 11月12日(土) 帰国の途へ

※日程およびプログラム内容に変更が生じる場合があります。



万次郎関連団体情報

「第7回ジョン万次郎英語弁論大会」開催案内&参加者募集

土佐ジョン万会では、全国の中学生と高校生を対象に、2015年より「ジョン万次郎英語弁論大会」を開催しています。新型コロナウイルスの世界的流行やロシアによるウクライナ侵攻など、現代を生きる学生たちを取り巻く環境は先の見えない状況となっておりますが、このような状況の中においても、ジョン万次郎のようにどんな困難にもけっして諦めず、自分の夢に向かって挑戦し続ける「ジョン万スピリッツ」を掲げ、「第7回ジョン万次郎英語弁論大会」を下記の日程で開催いたします。

日時 令和4年8月27日(土)

場所 高知県人権啓発センター6階ホール

申込締切 令和4年8月8日(月)必着

お問い合わせ 土佐ジョン万会事務局(担当:川村) 〒780-0952 高知市塚ノ原37番地 TEL:088-843-6007 E-mail:tosa@johnmung.org

http://johnmung.org/data/pdf/2022benron_bosyu.pdf



Japanese Hospitality Wherever You Fly



寄附協賛企業一覧 (五十音順) List of Corporate sponsors of CIE Japan



株式会社アイシン
AISIN CORPORATION



愛知製鋼株式会社
AICHI STEEL CORPORATION



株式会社ECC
ECC Co., Ltd.



株式会社ジェイテクト
JTEKT CORPORATION



全日本空輸株式会社
All Nippon Airways Co., Ltd.



ダイキン工業株式会社
Daikin Industries, Ltd.



株式会社デンソー
DENSO CORPORATION



株式会社ドトールコーヒー
Doutor Coffee Co., Ltd.



豊田合成株式会社
TOYODA GOSEI CO., LTD.



トヨタ自動車株式会社
TOYOTA MOTOR CORPORATION



トヨタ自動車九州株式会社
TOYOTA MOTOR KYUSHU, INC.



株式会社豊田自動織機
Toyota Industries Corporation



豊田通商株式会社
Toyota Tsusho Corporation



トヨタファイナンシャル
サービス株式会社
TOYOTA FINANCIAL SERVICES
CORPORATION



トヨタ紡織株式会社
TOYOTA BOSHOKU
CORPORATION



株式会社ニフコ
Nifco Inc.



日野自動車株式会社
Hino Motors, Ltd.



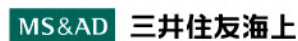
深田電機株式会社
FUKADA DENKI



富士通株式会社
Fujitsu Limited



ブラザー工業株式会社
BROTHER INDUSTRIES, LTD.



三井住友海上火災保険株式会社
Mitsui Sumitomo Insurance
Company, Limited



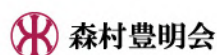
株式会社三井住友銀行
Sumitomo Mitsui Banking
Corporation



三菱商事株式会社
Mitsubishi Corporation



明治安田生命保険相互会社
Meiji Yasuda Life Insurance Co.



公益財団法人森村豊明会
MORIMURA HOUMEIKAI
FOUNDATION

東京海上日動火災保険株式会社 / パナソニック株式会社 / 矢崎総業株式会社
Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd. / Panasonic Corporation / Yazaki Corporation

法人賛助会員一覧 Corporate member

明治安田生命保険相互会社
Meiji Yasuda Life Insurance Co.



〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-12-18 グランアックス麹町 602
TEL : 03-3511-7171 FAX : 03-3511-7175
GRAND AXE 602 2-12-18 Koujimach, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan
TEL : +81-03-3511-7171 FAX : +81-03-3511-7175
Email : manjiro@manjiro.or.jp URL : http://www.manjiro.or.jp